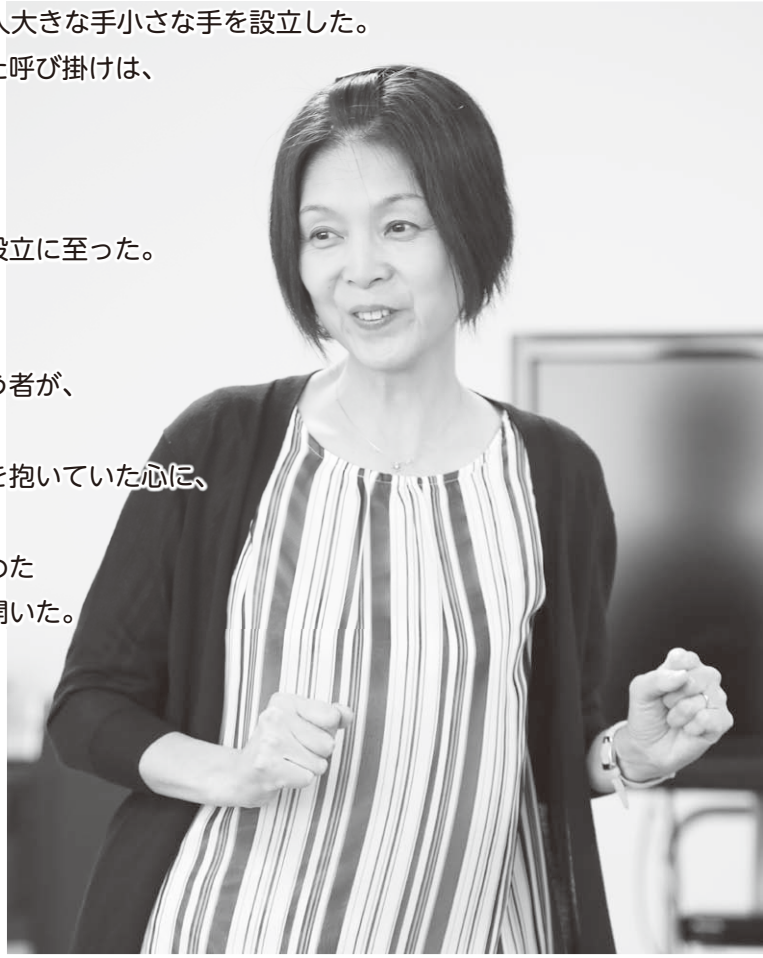
大きな手小さな手はみんなの手

金川 宏美
富山県

雄大な立山連峰は真冬の豪雪を豊潤に蓄え、
大地の栄養と共に川を経て富山湾へと注ぐ源である。
冬が厳しい分、富山湾の魚たちは多くの恵を授かる。

2014(平成26)年、金川さんはNPO法人大きな手小さな手を設立した。
当初多くの難題を抱え、無謀とも思えた呼び掛けは、
石倉さん(県聴覚障害者協会理事長)、
針山さん(全通研富山支部前会長)、
山崎さん(前県設置通訳者)、
他多くの仲間たちに共感を生み、法人設立に至った。
28年前、両側股関節の大手術を受け、
リハビリのためプールへ通っていた時、
手や体を使って、語りかけてくれるろう者が、
掌に「がんばって！」と励ましてくれた。
生活に障害が生じると告げられ絶望感を抱いていた心に、
大きな支えをもらった。
支えられたお礼を手話で返したいと始めた
「手話との出会い」は、法人設立へと花開いた。



講師養成講習会では新たな学びを得た。
手話通訳者の養成には熱が入る。

手話で
はなそう!
デイサービス
とやま型デイサービス
大きな手
小さな手

令和

NPO法人大きな手小さな手が運営する、
「とやま型デイサービス大きな手小さな手」では、
特に聴覚障害者に配慮したサービスを展開している。
ろう者の実際に関わる問題を解決すべく、忙しい日々。
問題の中身は軽度のものから、病気や命に関わること。
体調が悪いからデイサービスに来られないという独居の利用者さんの家を訪ね、
「週末だから医者に診てもらっとこ」と町医者へ同行する心遣い。
財産、人権に関わる重大な問題にさらされたろう者のケースでは、
家族会議に同席しろう者の権利を守るために家族間の調整を行った。
すべてはろう者に寄り添い、孤立させないためである。自らが絶望のふちにいた時、
「がんばって！」との小さな手話が、大きな心の支えとなり、今の人生へと変えた。
法人運営も努力の結果、昨年度黒字化でき、
新たな取り組みとしては「おはなしボランティア事業」へと具体化していく。
大きな目標であるグループホーム開設へと
希望は未来へ飛翔(はばた)く。

法人運営委員会

「毎晩遅い帰宅や、休日の講習会で留守をすることも理解してくれる主人には感謝しています」
結婚10年目を迎え、優しく明快な語り口調の中にあるはにかむ表情を、ご主人は静かに見る。
二人は新婚のようである。

新名所「世界一美しいと言われるスターバックス」を横目に心地よい日ざしの中、日々是好日。

写真/文　松本 博